

歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

卒業生の進路

進学が約60%就職が約40%

	進 学						計
	4年制大学		短期大学		専修学校	専攻科	
	国公立	私立	国公立	私立			
普通科	8	22	3	8	15	0	56
総合ビジネス科	0	8	0	5	25	2	40
工業技術科	2	3	0	1	8	3	17
合 計	10	33	3	14	48	5	113
	43		17				

	就 職						計
	民間企業		公務員		就職進学	自営	
	県内	県外	県内	県外			
普通科	0	3	0	0	0	0	3
総合ビジネス科	15	13	0	0	0	0	28
工業技術科	28	19	0	3	0	1	51
合 計	43	35	0	3	0	1	82
	78		3				

2020年3月の卒業生の進路状況がまとまりました。

単位：人

進学と就職の割合は、進学が58.4%、就職が41.6%となり、例年並みの割合となりました。学科別で見ると、普通科は進学が95.1%（昨年比+2.1ポイント）、就職が4.9%、総合ビジネス科は進学が58.8%（昨年比+7.3ポイント）、就職が41.2%、工業技術科は進学が25.0%（昨年比+4.0ポイント）、就職が75.0%となっております。

進学は専修学校への進学者が最も多く進学者全体の42.1%を占め、ついで4年制大学（37.7%）、短期大学（14.9%）です。専攻科への進学者は5名でした。

就職に関しては、以前もお伝えしておりますが、例年と異なる動きが見られ、県内企業への就職が県外企業への就職を上回りました。

卒業生全員が新たな場所で活躍し、人生の目標を達成することを期待しております。

1年生へ

気持ちを新たに

1年という区切りを迎えました。今年度はどんな1年だったのかを振り返り、新たな気持ちで来年度をスタートしてください。チャンスはまだたくさんあります。

2年生へ

いよいよ勝負です

企業の求人開始まで2ヶ月、求人票公開まで3ヶ月、共通テストまで9ヶ月となります。早めの準備が成功の鍵です。毎日、時間を大切に過ごしてください。

卒業生へ

学びつづけよう

高校生活を終え、新たな生活への期待と不安でいっぱいのことと思いますが、人生の学びはまだまだ続きます。いつまでも学ぶ心を持ち続けてください。祝卒業。

全国大学入試問題正解



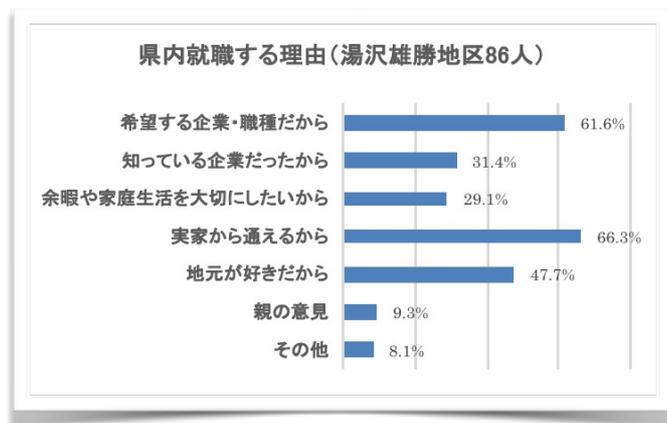
前回の進路通信で赤本について紹介しましたが、進路指導室にはもう一つ大学進学のための大切な資料があります。それは「全国大学入試問題正解」というもので、科目別に、毎年の個別大学の大学入試問題がまとめられているものです。

自分が志望する大学だけでなく、他の大学の問題も解いてみたいという時に活用するものですが、科目別になっていますので、自分が得意としている科目について、あらゆる入試問題を解いて実力アップを図りたい時には特に有効です。

この問題集に載っている問題を全て解いてみれば、その科目についてはかなりの学力アップになると思います。ぜひ挑戦してみてください。

就職する時に考えたことは

県のアンケート調査より



秋田県の「あきた未来創造部 移住・定住促進課」は、新規高卒就職予定者が就職先を決定する理由を把握し今後の高校生の県内就職の促進に向けた取組に反映させるために、令和元年12月から令和2年1月にかけて高校3年生の就職予定者を対象にアンケート調査を行いました。その結果が公表され、県内の高校3年生が何を理由に、県内と県外のどちらに就職するかを決めるのかが示されました。

グラフ：湯沢雄勝地区のアンケート結果

県全体としては、県内就職希望者が就職先を決定する理由の上位は、「希望企業・職種」、「実家からの通勤」がほぼ同数であり、次が「地元への愛着」、「余暇等の充実」となっています。これに対して、県外就職希望者が就職先を決定する理由については、上位から、「希望企業・職種」、「給料等」、「生活の利便性」、「実家からの自立」の順となっています。また、男女を比較すると、就職先の決定において、男子は「希望企業・職種」を、女子は「実家からの通勤」または「実家からの自立」を重視する傾向が高くなっています。

さらに、この調査では、全県と地域とで5ポイント以上の差がある項目をピックアップしていますが、湯沢雄勝地区では、県内就職については、「実家からの通勤」が+8.3ポイント、「地元への愛着」が+7.7ポイント、「余暇等の充実」が-9.1ポイント、「親の意見」が-5.3ポイントとなっており、県外就職に関しては、「希望企業・職種」が+14.2ポイント、「給与等」が-17.3ポイントという結果でした。

一般的に、県内就職を選ぶのは親の意見が強いから、県外就職を選ぶのは給与や福利厚生がいいからというのが通説でありましたが、この結果をみると、全県と比べてこの地区の高校生は外的要因よりも自分の希望に従ってしっかりと就職先を決定している人が多いことが読み取れ、望ましい傾向にあることがわかりました。



自分の進路は自分で考えて決めるということは基本ですが、実際の場面ではそれだけでは決定できないこともあります。しかしながら、湯沢雄勝地区の高校3年生は基本的に忠実に自らの希望で就職先を決めている人が多く、この人たちは今後も職業人として積極的な生き方をしてくれるものと期待されます。

来年度の就職は・・・

新型コロナウイルスの感染拡大により様々な活動が制限された結果、日本や世界の経済状況は非常に不安定なものとなりました。経済状況が不安定になった場合、大きな影響のある事柄の一つが新規卒業者の就職です。今年度までは、いわゆる「売り手市場」と言われ、秋田県の1月の有効求人倍率は1.42（仕事を求めている1人につき1.42人分の求人がある状態）でした。しかしながら、今回のウイルス感染拡大の影響は、2ヶ月後から始まる企業の求人にも及ぶとみられ、就職は今年度と同じようには進まないのではという見方が多くなっています。進路指導部では、出来る限り早く企業の求人状況を把握したいと考えています。生徒の皆さんも、就職試験が厳しい状況になると考え、筆記試験に必要な基礎的な学力を確立し、面接試験で高評価を得られるように自分磨きに早めに取りかかってほしいと思います。

